



至善館
SHIZENKAN

大学院大学至善館 教育情報の公開

2022年9月

1. 大学院大学至善館のミッションと教育研究上の目的

ミッション(本学ウェブサイトより)

人間性と社会性を兼ね備え、イノベーションと変革を牽引する経営リーダーを輩出する、独自の全人格経営リーダーシップ教育機関として、20世紀を象徴する経営リーダーシップ教育のパラダイムであった西洋発のビジネススクール教育を出発点としながらも、21世紀を生きる私たちを取り巻く環境からの要請に真摯に向き合い、22世紀に向けて、日本そしてアジアから、世界のリーダーシップ教育のパラダイムシフトを実現することを目指す。

教育研究上の目的(本学の学則第5条より)

社会全体のイノベーションを牽引することで世界の持続的かつ安定的な発展に貢献するという使命感を持ち、22世紀までを視野に入れた事業・組織経営のあり方を構想し、自らリーダーシップを発揮していく中で周囲の共感と信頼を得て人と組織を動かし、構想を実現できる人材を育成する。同時に、新たな全人格リーダーの育成プログラムを確立し、世界のリーダーシップ教育の革新を牽引する。研究活動においては、西洋の合理性とアジアの精神土壌を橋渡しし融合することを目指し、より包摂的かつ持続可能な経済社会像、企業像、組織像のあり方を探究することで、豊穡で安寧な人類社会の未来に貢献する。

2. 大学院大学至善館の概要

名称: 大学院大学至善館
イノベーション経営学術院
イノベーション経営専攻

学長: 野田 智義

キャンパス: 東京都中央区日本橋二丁目5番1号
日本橋高島屋三井ビルディング17階
(東京メトロ日本橋駅徒歩0分、JR東京駅徒歩5分)

学位: 経営修士(専門職)
Master of Business Administration in Design and Leadership
for Societal Innovation

学費: 入学金 20万円 授業料 240万円(年額)
2年間合計 500万円



教員組織: 学 長 野田 智義
副学長 大滝 精一 ※学術院長兼務
塩川 哲也
Jorge Olcott ※非常勤
吉川 克彦
長尾 俊介

教員数: 専任教員16名 兼任教員55名 合計71名

	専任教員	兼任教員	計
教 授	13	34	47
准教授	3	21	24
計	16	55	71

(2022年9月1日現在)
※専任教員の教育研究業績はウェブサイトに掲載

3. 至善館の3つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー:

本プログラムは、経営プロフェッショナルであると同時に社会の一員であるという自覚と責務感を併せ持った全人格な経営リーダーを輩出することを教育目的にしています。

独自のカリキュラムを修了し、次世代のリーダーに必要な能力である、事業活動や組織、さらには経営を包括的に見渡す視座を持ち、起業家精神と柔軟な発想で、事業の創造と変革をリードする力を身につけた人材に、「経営修士[専門職]: Master of Business Administration in Design and Societal Innovation」の学位を授与します。

本学が育成を目指す全人格経営リーダーに求められる能力・資質を、より具体的に定義したものが、以下の4つのコンピテンシーです。

- **個人としての意志力**.....自分は何者で、何をするために生を受けたのかという問いを通じて、使命感を身につけ、人生ビジョンを持って行動し、同時に、人としての成 \square を継続する力。
- **経営人材としての構想力**.....高い視座と \square 期的な視点を持ち、物事の本質を追求しながら、時代の変化と環境の変容を先取りし、過去や慣習にとらわれることなく、経営者・起業家視点で、新しい事業・組織・経営のあり方を構想する力。

(1) ディプロマ・ポリシー(続き):

- **リーダーとしての実現力**.....構想の実現に向けて率先垂範で行動し、人々と真摯に向き合い、共感と信頼を得て、組織と社会に波紋を広げながら、創造と変革を牽引する力。
- **全人格な基軸力**.....歴史観・世界観・人間観に裏づけられた確固たる信条・理念・哲学と、社会の一員であるとの自覚・責務感を併せ持ち、自ら確立する基軸を拠り所として、ぶれずに判断し行動する力。

(2) カリキュラム・ポリシー:

- 独自のリベラルアーツ教育を通じて、世界観・歴史観・人間観を醸成し、個々の信条、理念、哲学となる「全人格な基軸力」を涵養するとともに、過去の潮流と現在の課題を理解し、未来の予兆を感じ取る洞察力を伸ばす。
- 経営人材としての全体俯瞰的・包括的視座を養うため、企業活動を諸機能ごとに細分化して学ぶのではなく、経営全体のプロセスの中での必要性を絶えず意識しながら、知識・スキル・思考法の習得を目指す。と同時に、管理者育成の教育パラダイムからの脱却を図るために、デザインスクールやイノベーションスクールのエッセンスを取り入れ、未来に求められる新たな事業像・経営像・経済社会像を構想でき、イノベーションを起こしていくための柔軟な思考力と感度を獲得できるようにする。
- 至善館の教育の目的は、学生が習得したスキルや知識を実践の場で活用することにある。そこでは、「リーダーとしての実現力」が何よりも求められる。構想の実現にあたっては、周囲の共感と信頼を得て、人と組織に波紋を広げていくことが求められるが、至善館のプログラムでは、そうした行動の源泉となる人間的な魅力・度量・器を培うため、人と向き合い、人と協働し、人を動かすうえでの自身の行動特性や、リーダーとしての強み・弱みを知るためのアセスメント、他者からの観察とフィードバック、チームによる協働作業の場での、自身の行動や貢献に関する自己診断やメンバーからのフィードバックなどを、プログラムに積極的に織り込む。

(2) カリキュラム・ポリシー(続き):

- リーダーシップは、思い、志、情熱がなければ十分に発揮できないことはいうまでもない。他者からの命令や周囲から評価されるという外的な動機づけだけでは、不確実性やリスクと対峙し、時に逆境に耐えて挑戦を続けることはできない。残念ながら、思い、志、情熱という内発的なドライバーは、知識の修得で身につくものではない。自分は何者なのか。何をするために生を受けているのか。自分が人生を通じて成し遂げたいことは何か、といった一連の問いを繰り返し自分に投げかける中で、所属や肩書による制約から解放された「個人としての意志力」として、より明確となるものである。こうした認識から、至善館のプログラムでは、心理学やコーチングの手法を積極的に取り入れ、内省、自己との対話を促すワークショップを繰り返し実施する。

(3) アドミッション・ポリシー:

本学では、入学者の受け入れにあたっては、次の3つの要素を重視している。選抜審査にあたっては、これらの要素について入学者が持つ潜在性(ポテンシャル)を総合的に勘案する。

- **自分自身の手で人生を切り拓こうとする姿勢**
所属(あるいは自身が経営)する組織において、自らイニシアティブをとって人やチームに影響力を発揮し、変化を創りだすリーダーシップを発揮した経験を持っていること。また、これまでの人生経験を通して形成されてきた“自分”という存在について、自分なりの認識をもっていること。また、本学の教育課程の受講を通じて、自らを磨き、単なる機能別スペシャリストではなく、経営・起業を担う人材をめざす意欲を持っていること。
- **知的な吸収能力と本質的な思考力**
本学の教育課程を咀嚼し吸収するうえで必要となる、基礎学力、知的能力、知的好奇心、物事の本質を探究しようとする姿勢を有していること。その上で、事象の表層を安易に受け入れることなく、根底にある複雑な要因を構造化し、あるいは対峙するにあたっての自身の仮説を論理的に推論しながら形成し、建設的な議論ができる能力を有していること

(3) アドミッション・ポリシー(続き):

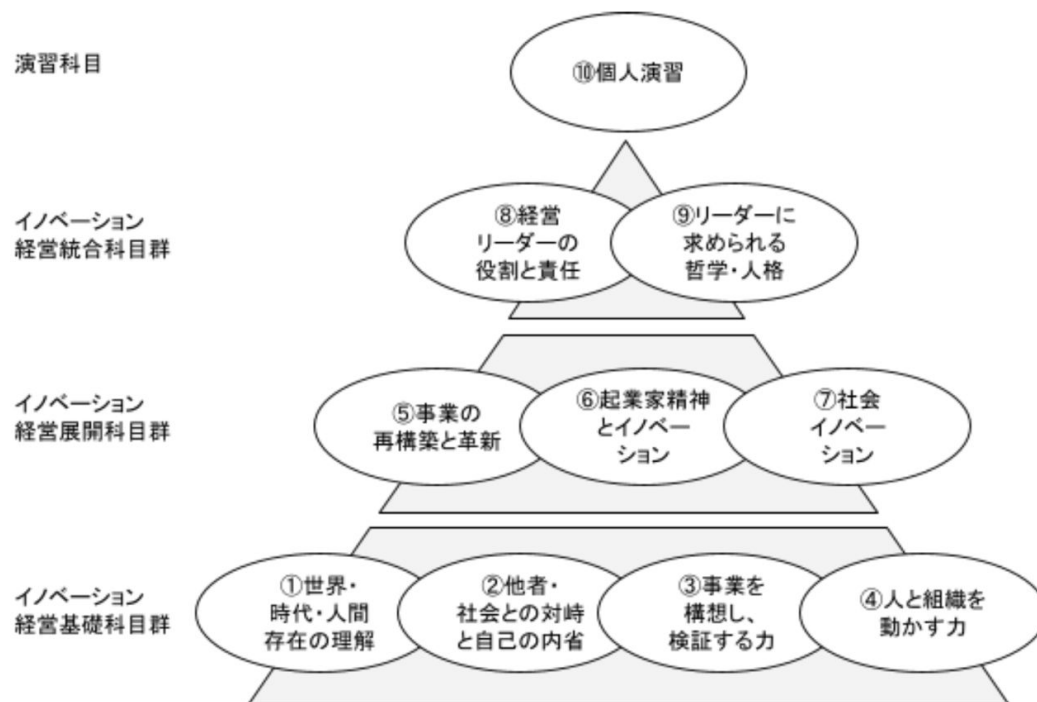
- **人、組織、社会/世界への深い問題意識と、他者への貢献意欲**

世界の情勢や社会を取り巻く状況に関心を持ち、時代の潮流や行く末に対して、問題意識を持っていること。また、自身が所属・経営する組織の課題と挑戦について、自分なりの考えをもっていること。そして、人間という存在や、人間の営みが創りだす組織活動やコミュニティ、社会に対して、理想主義にも悲観主義にも陥ることなく、また、表面的な理解にとどまることなく、現実と向き合い深く考察する姿勢を持っていること。何よりも、こうしたリアリティを伴う深い問題意識を、自分自身の中にとどめず積極的に他者と共有し、相互触発や切磋琢磨のなかで互いの学びと人間成長に繋げてゆく意欲を持っていること。

4. カリキュラムと授業

カリキュラムの構成

至善館のカリキュラムは、変革と創造を牽引できる経営プロフェッショナルとしてのスキルを持ち、人間性と社会性を兼ね備えた全人格リーダーへの成長を促すべく、ヒューマニティの尊重を基軸に、独自の教育哲学とアプローチにより設計されている。実質20ヶ月に渡る授業は、学びの最大化を目的に段階的に効果的に配置されている。本学の教育体系は、「イノベーション経営基礎科目」「イノベーション経営展開科目」「イノベーション経営統合科目」「演習科目」の4つの科目群で構成される。(下図参照)



イノベーション経営基礎科目

企業家・起業家として成長・活躍していく上で基礎となる知識や技術を学ぶ。この科目群は、更に4つに区分される。



① 世界・歴史・人間存在の理解

リーダーとして未来を切り開き、挑戦を描くための基礎となる、人間観、歴史観、世界観を涵養する

＜科目＞「企業論 一企業、市場そして社会」「近代哲学、資本主義、人間存在の未来」「宗教から考察する社会構造と世界の多様性」「社会システムの理論と人間存在の未来」「科学技術・イノベーションと人間存在の未来」「東洋思想に見るリーダーシップ」「世界の中の日本：西洋と東洋の対話」「フィールドスタディ」

② 他者・社会との対峙と自己の内省

自己との対峙、今後のキャリアの展望を通じ、これからの社会において求められるリーダーの在り方を模索し、一人ひとりのリーダーとしての成長の基礎を固める

＜科目＞「世界と未来に対峙するリーダーの条件」「世界の鳥瞰と価値観の超克」「世界を見るまなざしーパフォーミング・アーツを通じてー」「自己との対峙と基軸の確認」「キャリア・デザイン」

イノベーション経営基礎科目(続き)

③ 事業を構想し、検証する力

企業家・起業家として、事業構想を描き、検証していくための知識・スキルを学ぶ。

＜科目＞「財務分析評価と経営管理の梃子」
「市場の原理と企業金融の理論」「システム思考と持続可能性への挑戦」「マーケティングの原理と実践」「AI時代のデジタルリテラシー」「構想する力」「リーダーとしての意思決定」「構想を具現化する力」「戦略手法と戦略思考」

④ 人と組織を動かす力

企業家・起業家として、自身の描いた構想の実現に向けて人と組織を動かしていくための対人スキルを学ぶ。

＜科目＞「思いとビジョンを伝える技法」「人と組織のマネジメント」「人と向き合い人を動かすリーダーシップ」「リーダーシップと交渉術」



イノベーション経営展開科目

「イノベーション経営基礎科目群」を土台に、より専門的な学びを行う。この科目群は、更に3つに区分される。



⑤ 事業の再構築と革新

リーダーとして自らが描いた構想を実現するため、組織をデザインし、組織能力を構築するとともに、組織を変革することを学ぶ。

＜科目＞「グローバル戦略と経営」「事業再生の経営」
「デジタルトランスフォーメーションとイノベーション」

⑥ 起業家精神とイノベーション

起業家、或いは社内起業家として、イノベーションを起こすことを学ぶ。

＜科目＞「アントレプレナーシップと事業創造」「企業のサステナビリティ・イノベーションとイントラプレナーシップ」

⑦ 社会イノベーション

主に行政機関やNPO、社会企業におけるリーダーを志す学生を対象とした科目群

＜科目＞「公共政策：枠組みと実践」「都市とインフラの戦略経営」「ソーシャルビジネスとインパクト」

イノベーション経営統合科目

リーダーとして、全体を俯瞰的に見る視野・姿勢を学ぶ。
この科目群は、次の2つから成る。



⑧ 経営リーダーの役割と責任

要素還元的にビジネスの一側面に焦点を当てるのではなく、ビジネス全体を統合的に考える

＜科目＞「経営政策の論理と実践」「事業計画の作成とビジネスモデルの構築」

⑨ リーダーに求められる哲学・人格

リーダーに求められる哲学や人格を涵養する

＜科目＞「リーダーシップの本質を掘り下げる」「リーダーとしての生き方」「資本主義の未来—ビジネスとリーダーの新たな役割と挑戦」「身体感覚と内省(ヨーガと内省)」「リーダーに求められる心の在り方(座禅と講和)」

⑩ 演習科目

本学における学びを統合する機会として位置づけられ、一人ひとりが、自身の卒業後の全人格経営リーダーとしての挑戦についての構想を描く。

＜科目＞「個人演習1」「個人演習2」

※ 個別科目の詳細については、「授業科目の概要」をご覧ください。

授業

パートタイムのプログラムとして運営され、授業は全て平日夜及び、週末・祝祭日に行われます。

平日夜(18時30分～21時15分)

週末・祝祭日(8時30分～20時00分)

※一部、集中講義となる科目があります。



5. 入学・在籍・修了の状況

入学定員： 80名(2022年8月の入学者数82名)

収容定員： 160名(2022年9月1日現在の在籍者数169名*)
*休学者数も含む

学位授与者数:222名 (2022年9月1日現在)

修了者数： 2022年6月 修了者67名

修了後の状況(2022年6月修了者):

企業勤務	47
官公庁勤務	7
事業経営者	3
NPO／NGO勤務	3
海外機関勤務	4
進学	0
その他	3



6. 課外活動と学生サポート

海外活動

学生たちは、至善館のキャンパスのある日本橋地域の活動に積極的に参加をしています。また、自主企画イベント等も適宜開催しています。



学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

至善館では、1年次には、学修に関するサポートを目的に、専任ファカルティを中心としたメンター制度を設けています。2年次にはゼミファカルティがサポートします。また、キャリアや心身の健康などその他の相談については事務局が窓口となりサポートを行っています。

7. その他

教育課程連携協議会

学校教育法第99条および専門職大学院設置基準第6条の二に基づき、教育課程連携協議会を設置

<メンバー> ※2022年9月1日現在

- ・野田 智義 (大学院大学至善館学長)
- ・大滝 精一 (大学院大学至善館イノベーション経営学術院長)
- ・加賀谷 順一 (IESEビジネススクール エグゼクティブ教育部門
アジア統括マネジング・ディレクター)
- ・北城 恪太郎 (日本IBM名誉相談役、経済同友会終身幹事)
- ・清水 基昭 (清水建設取締役、日本橋倶楽部会員)
- ・安淵 聖司 (アクサ・ホールディングス・ジャパン 代表取締役社長兼CEO)
- ・吉川 克彦 (大学院大学至善館副学長 准教授・教務担当)

<開催状況>

2019年度:2020年2月27日開催

2020年度:2021年3月8日開催

2021年度:2022年3月4日開催

2022年度:2023年3月4日開催

8. 施設及び設備

① 大講義室(3室)

グループ形式 72名程度収容

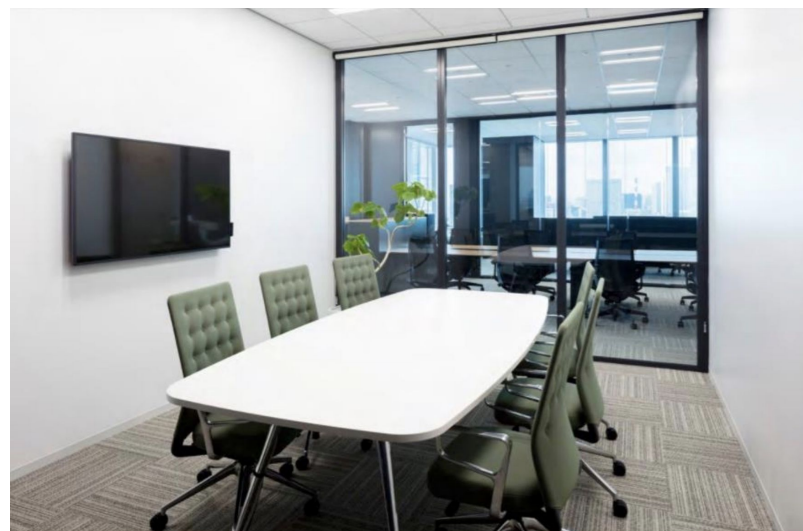
シアター形式 132名程度収容

スクール形式 84名程度収容



② 演習室(4室)

6～9名収容



8. 施設及び設備

③ ライブラリー

36席



※キャンパス建物 耐震化率 100%(2018年竣工)